

分娩料、分娩介助料、新生児管理保育料の料金について

国立循環器病研究センターにおける、分娩料、分娩介助料および新生児管理保育料等(自費負担をお願いしています)につきましては、下記のとおりとなります。

分娩料・分娩介助料

分 娩 時 間		料金(1児あたり)	
平日	時間内 8:30～17:14	360, 000円	非課税
	時間外 17:15～21:59、6:00～8:29、土曜日の深夜以外	380, 000円	
	深夜 22:00～5:59	400, 000円	
休日 日・祝日および年末年始			
※無痛分娩麻酔を実施する場合、上記料金に150,000円の加算となります。 ※無痛分娩に係る麻酔科外来の診察料金は、1回あたり5,000円です。 ※出産に関する医療費は原則、保険適用外の自費負担となります。 ※上記分娩料・分娩介助料のほか、入院基本料、検査・薬剤料、食事代などが別途かかります。 ※帝王切開や疾患を伴う出産などの場合、入院基本料は保険適用となります。 窓口で保険証、限度額適用認定証（窓口負担が高額になることがあるため）の提示を必ずお願いいたします（分娩料は別途かかります）。 ※分娩料には「産科医療補償制度」掛け金12,000円を含みます。従いまして、当該制度の対象外である22週未満分娩の場合、上記より12,000円の減額となります。 ※多胎分娩の場合、上記分娩料×分娩児数の適用となります。 ※プロウペスを使用した場合、上記料金に20,000円の加算となります。			

新生児入院	- 生まれた赤ちゃんに入院加療が必要となった場合、保険適用となりますので、保険証、医療証等がお手元に届いたらご提示ください。 - 上記以外の場合、生まれた赤ちゃんについては新生児管理保育料(自費)として出産日は30,000円、2日目以降は1日あたり15,000円を負担していただきます。※新生児管理保育料には、出生時の処置料、一般的な検査料、赤ちゃんのベッド代、お世話代並びにミルク代などを含みます。 - ビタミンK欠乏性出血症の予防のために、ケイソーシロップを投与します。入院中から投与を開始して、退院後の分は退院時にまとめてお渡します。薬剤料(自費)として1,100円(課税)を負担していただきます。
-------	--

令和7年9月